



※農薬の使用はラベルの記載に従ってください。

土壌消毒や土壌生物性について

**防除チラシ掲載農薬は年間の通し回数をカウントしていません！
ご自身の散布履歴に合わせて薬剤を検討してください！**

D-D

ネコブセンチュウ・ネグサレセンチュウ・コガネムシ類幼虫
15~20ℓ/10a 1回/作付10~15日前まで

- ◆ 連作障害の一因である線虫害から守ります
- ◆ ネコブセンチュウの他、ネグサレセンチュウやシストセンチュウにも効果が高い



土壌病害とセンチュウ害を抑えるには・・・

→バスアミド微粒剤との併用がおすすめ！

バスアミド微粒剤を土壌混和後、D-Dを注入し表土を被覆。ガス抜き後、作付けする。

クロルピクリン錠剤

詳しい登録内容についてはラベルをご確認ください！

クロルピクリン液剤を特殊な方法で固形化した錠剤タイプの土壌殺菌・殺センチュウ剤です！

- 少量の水分で錠剤のフィルムが緩みガスが放出拡散される
- 短期間で消毒可能
(培地消毒の場合
夏季：約10日・秋冬季：約2週間)



バスアミド

微粒剤

効果を上げるポイント！



- ① 砕土を丁寧に行う
→固まっている土の内部は消毒されません！
- ② 可能な限り被覆を行う
→被覆を行わないと薬剤が抜けやすくなります
病原菌は深層に潜んでいます！
- ③ センチュウ剤と併用がおすすめ
→散布混和後、D-D剤を注入・被覆してください
粒状を併用する場合、ガス抜き後に処理してください

地温による被覆期間の目安

地温	被覆期間
25℃以上	7~10日
20℃	10~14日
15℃	14~20日
10~15℃	20~30日以上

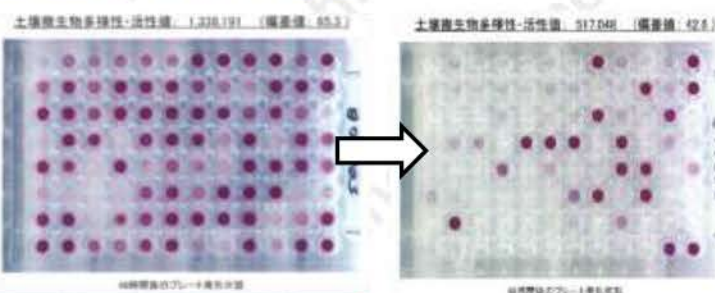
青枯病 30~60kg/10a
ネコブセンチュウ 20~30kg/10a
は種又は定植21日前まで 1回

その他登録内容は
ご確認後使用してください

化学剤を使用して土壌消毒をすると・・・

右の写真は、化学剤を使用して土壌消毒を行った後の土壌微生物性の変化です(色の濃い部分が微生物の活性が高い)。

土壌消毒後は全てではありませんが、**有用菌も含めた微生物が死滅**します。この時、病原菌が繁殖してしまうと病気の発生につながるため、新たに**有用菌の生態系**を作ることが重要です。また、**有用菌が繁殖しやすい土台作り**も大切です！



五右衛門

10~20kg/10a
10kg/袋

- ◎ 有機物中の難分解繊維質の分解を促進
- ◎ 有機物中の作物生育阻害物質の分解を促進
- ◎ 有機物施用による有毒ガスの発生を防止
- ◎ 有用微生物が多く存在する豊かな土壌に

直播栽培の圃場ではすきこみから3週間以上あけてください。

ポカシ肥料との併用がより効果的です。



毎月1日掲載
各作物をチェック！

